

第 32 回東海支部総会の報告

蒲郡市生命の海科学館にて

東海支部長 神谷 秀光 (昭 58・生物卒)

令和 7 年 1 0 月 1 8 日 (土) に蒲郡市生命の海科学館にて東海支部 (愛知県、岐阜県、三重県) の総会を開催致しました。支部総会の開催場所を名古屋市以外にすることで、現地に近い会員さんが来てほしいと思い、今年 は愛知県三河地方の蒲郡市にしました。その結果、支部総会参加者のうち、一人は開催地の隣の豊川市から来て いただけました。また本部より伊藤展枝理事長が出席してくださいました。今回は第 5 回東海支部学生奨励賞の 授与報告で盛り上がりました。また、理学部の現状やこれからの見通しなども知ることができました。東海支部 の活動は支部会員皆様のご協力や鶴風会本部の皆様のご協力によって、なりたっていることを改めて実感し、感 謝したいと思いました。

ワークショップでは、山中敦子氏 (蒲郡市生命の海科学館館長) の『隕石から「はやぶさ 2」へ、そして「MMX」 へ!』をテーマに講演が行われました。新たに参加者 4 名が加わり 1 2 名の参加となりました。山中館長は、NHK の「ダーウィンが来た」の番組に何度も出演するほど惑星科学で有名な方です。探査機「はやぶさ」の持ち帰っ た微量な小惑星の試料によって「隕石は小惑星のかけらである」ことが証明されたそうです。隕石は、地球や太 陽系の生まれたころの岩石の組成を保存していて、原始のころの地球の様子や、現在の地球内部の構造までわか ることができます。また隕石の中にアミノ酸などの有機物や多くの水が含まれているものも見つかったので、 地球の生命も隕石からもたらされたという考えが主流です。ただし、隕石は地球に落ちてくる間にかなり損壊し てしまうので、「はやぶさ 2」で「もっと小惑星採取に行こう。」ということで、ミッションが行われました。これからの日本の宇宙開発は、来年打ち上げ予定の「MMX」という火星の衛星フォボスから地面の石を持ち帰る 計画だそうです。なぜなら衛星は、惑星よりもはるかに古い岩石でできているので、惑星の歴史を知るために、 隕石や衛星の石を調べることがとても大切だそうです。

講演会後は館内展示を山中館長さんが直接解説するガイドツアーをしていただけました。貴重な化石展示も多 く、特に 1 階のクジラの新種の化石は、とても貴重で、そんなすごいものがこの科学館には、いっぱい展示され ているそうです。たくさんの資料をもとに、地球 46 億年の歴史を学ぶことができました。

懇親会では、地元の海の幸をおいしく食べながら、大学時代の懐かしい話や、昔と違う今の大学生の話など、 いろいろな話で盛り上がりました。

